

連携

大牟田市の認知症への取り組み

大谷るみ子

認知症でもだいじょうぶな町づくり
・多職種協働・地域協働・多分野協働・

はじめに

大牟田市は九州のほぼ中央、福岡県最南に位置し、かつては炭坑で栄えた町ですが平成9年炭鉱の閉山後、人口減少、経済低迷と厳しい社会状況下にある地方都市です。人口約13万人、高齢化率は28%を超え、「石炭で栄えたまち」から「人にやさしいまち・福祉でよみがえるまち」へ変わろうとしている町でもあります。

認知症ケア研究会の発足

介護保険制度の施行に伴い、大牟田市介護サービス事業者協議会が発足、認知症高齢者の急

増や介護の困難さに翻弄される中、平成13年11月、大牟田市介護サービス事業者協議会の専門部会として「認知症ケア研究会」が発足しました。その出発点は、「たまたま巡り会った施設や介護者によつて幸福にも不幸にもなるのではなく、どここの事業所でも、どんな介護職員に巡り合つても幸福に暮らせるために、自分の施設だけよくてはだめ、市内の様々な事業所が手を携えて学びあい高めあおう」という考え方でした。会員は、特養・老健などの施設や病院、グループホームなどの看護・介護職員等約270名で、事務局は大牟田市長寿社会推進課が担つ

①認知症介護に関わる実態調査（平成14年度）

地域で認知症の人を支える意識や

しくみが必要ですか？ 平成14年度調査



↓
地域づくりの提言、キーワード → 活動の基盤

- ★ 向こう三軒両隣、隣組、小学校校区単位の身近なネットワークの構築
- ★ 公民館、民生委員の機能の復活と地域資源の活用
- ★ 認知症をかくさず、恥じず、見守り、支える地域全体の意識向上
- ★ 行政と地域の連携、推進者の育成・配置、介護現場の質の向上
- ★ いつでも相談できるサポートセンターの設置
- ★ 子供のときから学ぶ、触れる機会をつくる
- ★ 家族への支援、家族介護の負担の軽減

ています。まさしく官民協働の取組みです。平成14年度から大牟田市が認知症の人とその家族を支え、誰もが安心して暮らせる町づくりを目指そうと「地域認知症ケアコミュニティ推進事業」を打ち出し、認知症ケア研究会がその事業を主管してきました。

まず手始めに平成14年度に市内全世帯と高齢者・家族・職員各3、000人を対象とした大規模な認知症介護に関わる実態調査を行いました（図①）。調査そのものが市民への啓発であると確信していましたが、市民から寄せられた2、200ほどの認知症に対する不安や苦悩、地域全体で支えるための意見や提案が届いたのには驚きました。すべての声を考察してみると「認知症対策や地域づくりの提言」が浮き彫りになり、その後の大牟田市における認知症対策はそれらをベースにしたものです。

わずか5年前ですが、介護現場も家族も認知症に関する知識や情報が不足し、どのように介

② 認知症コーディネーター養成研修

わがまちの認知症コーディネーター

- ◎地域包括支援センターへ
- ◎在宅所へ
- ◎ユニットケアの推進者へ
- ◎ケアマネジメントの推進者へ

平成18年度から

- ◎小規模多機能型居宅介護施設への受講義務化
- ◎急性期病院に認知症ケアの理念と視点を！
医療連携チームをつくろう
- ◎地域包括支援センターには完全配置を！

護したらよいか分らない時期、まずはケアに着目しました。認知症ケアの研修会や介護現場の事例相談会を行い、在宅介護支援センターを拠点とした地域認知症・家族介護教室は3年間にわたって開催しました。

認知症コーディネーター養成研修

平成15年度からは、認知症介護の質の向上や地域をフィールドに認知症支援を推進していくための人材育成として大牟田独自の「認知症コーディネーター養成研修」に着手しました(図②)。2年間300時間のカリキュラムでデンマークの認知症コーディネーターの資格や役割教育をヒントにしたもので豊かな人間観を醸成することに主眼を置いています。資格を与えるものではなく、人間を深く理解し認知症の人心のケアや支援を導いていく推進者を育てるものです。現在18名が終了、この春にさらに9名が修了し、認知症ケア研究会が主管しているもの忘れ相談検診や予防教室(図③)、ケースカンファレンス、ワークショップ、認知症市民サポーター養成講座、絵本教室、徘徊ネットワーク(図④)など様々な活動を担っています。まだまだ活動は始まったばかり、修了生の成熟度もまちまちでボランティア的なもので、目

③もの忘れ検診・予防教室の取組み

- 平成18年度3ヶ所の介護予防拠点・地域交流施設にて検診開催
- ミニ学習会→1次検診→2次検診→問診→予防教室への登録 *1次検診のみの場合は予防教室を受けて終了
- 検診参加者145名、41名がMCIまたは認知症の疑いがあり、予防教室へ参加
- もの忘れ相談医・認知症コーディネーターや専門医療機関、地域包括支援センターとの連携によるフォローアップ中

指している役割の担い手としてはまだ本物ではありません。とはいえ、大牟田には認知症ケア研究会運営委員や認知症コーディネーター修了生が存在することは多くの認知症対策の担い手がすでに育っているという点で評価に値すると

④大牟田市ほっと・安心（徘徊）ネットワーク全体構成

＜大牟田市高齢者等SOSネットワーク＞

- 大牟田警察署：メインステーション
- 大牟田消防署：地域安全安心ネット
- 福岡県大牟田土木事務所
- 大牟田市役所、その他（タクシー協会、コンビニ、石油組合、大牟田駅など）

＜地域ネットワーク＞

はやめ南人情ネットワーク
明治校区、吉野校区、笹原校区
周辺市町村へ

認知症市民サポーターネット

* 予めメール登録を行い

地域安全安心ネットから送信

地域支援ネットワーク

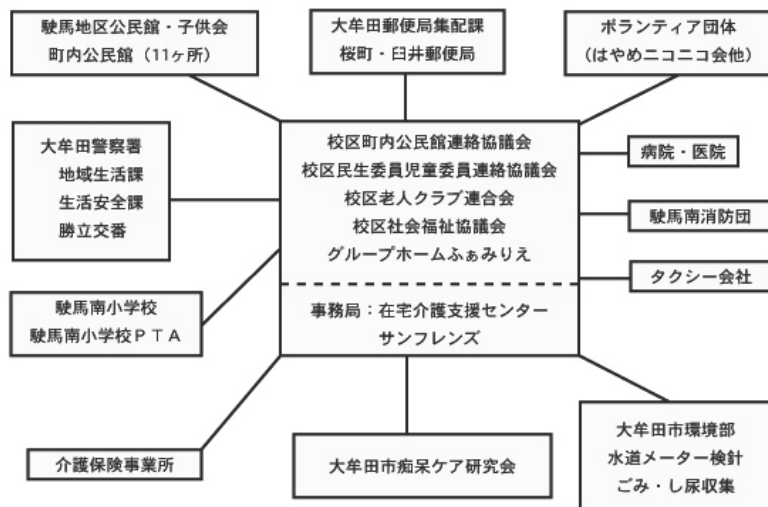


大牟田市役所庁内
地区公民館→地域包括支援センター
介護サービス事業者 小学校
介護支援専門員 中学校
大牟田社会福祉協議会
もの忘れ相談医・医師会
大牟田市認知症ケア研究会
民生委員児童委員
健康介護まちかど相談薬局

基本理念

- 1.個人の尊厳
- 2.地域協働
- 3.まちづくり

⑤ はやめ南人情ネットワーク



自負しています。

地域啓発・地域づくりの取組み

特徴的なのは、地域啓発・地域づくりの取組みです。専門職の連携に止まらず、地域全体が認知症について正しい理解を持ち、偏見や差別をなくし、地域全体で支えあう町づくりをしていこうというもので、平成15年度から身近な地域で支えあうネットワークをつくらうと、「はやめ南人情ネットワーク」(図⑤)を提案、このネットワークの徘徊模擬訓練を通して大牟田市全域の徘徊ネットワークが確実に広がっています。また「子どもの時から認知症の高齢者とふれあう機会があったらいい」という市民の声をヒントに、子供たちのための絵本づくりを行いました。絵本のタイトルは「いつだって心は生きています。大切なものを見つけよう」(図⑥)というもので、地域の24人の子どもたちと認知症本人・家族と共に作成し、その絵本を使って

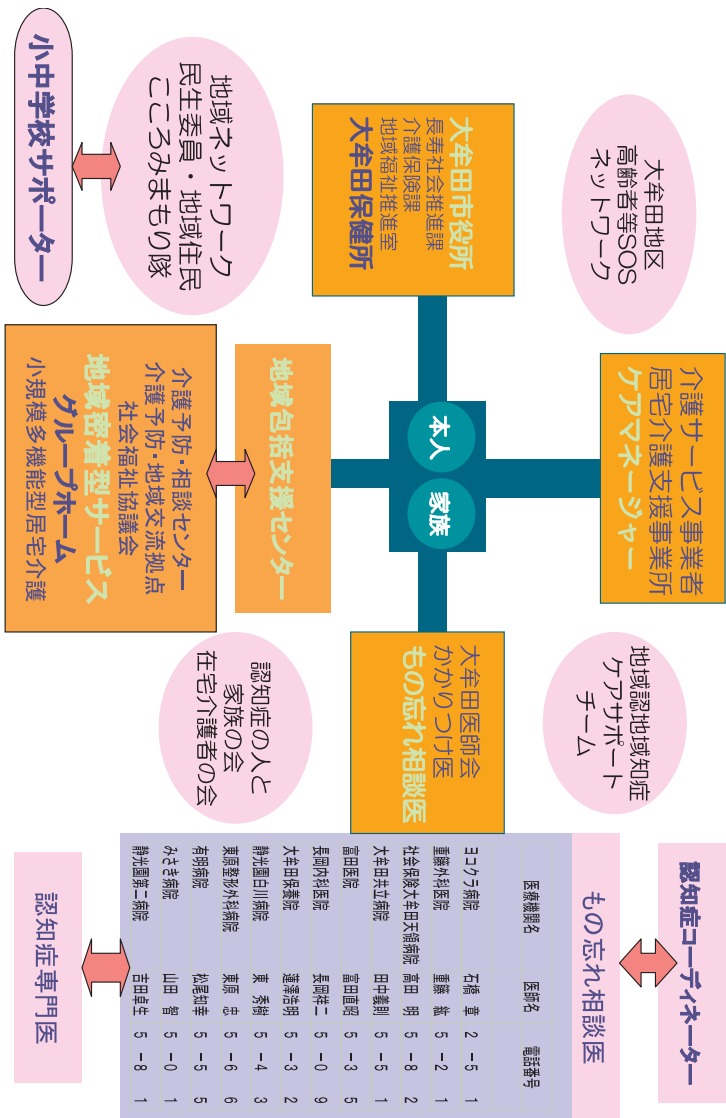
⑥ 絵本「いつだって心は生きている」



平成16年度からは市内の小中学校の総合学習の時間を使って絵本教室を開催しています。それは子どもへの教育ということだけでなく、子どもは家族の一員であり、地域の一員ですから、絵本や子供たちの力を借りて地域全体に認知症

の理解が広がり、支えあう意識が高まることを願って行っているものです。子どもたちは2、3時間の絵本の読み聞かせやグループワークを通して「認知症は病気である」「もの忘れや道に迷ったり、怒りっぽくなったりするので周りが大変だけど、一番苦しいのは本人だということ」「できなくなることもいっぱいあるけれどもできる力や子供や孫を思う豊かな愛情にあふれていること」そして「回りの理解や接し方で落ち着いたり、症状の進行が遅くなったりできること」などを学んでくれます。そして早期に発見したり治療やケアの専門家に早めにかかったりすることが大事だと気づいてくれます。絵本教室前後のアンケート調査で、子どもたちの90%が認知症の高齢者に対する見方が変わった、自分たちにもできることがいっぱいあると述べています。現在1年後、2年後、3年後の追跡調査を行っています。まだ途中経過ですが、家族や地域の人と認知症について話をしたり、道

⑦大牟田市の認知症早期発見・診断・支援・サービスイメージ図



で高齢者に挨拶をするようになったという答えが多く聞かれています。これらは介護分野と教育分野との多分野交流の成果でもあります。さらにこれらの地域啓発の取組みによって認知症に対する偏見をなくし、認知症を恥じたり隠したりしない意識が広がり、ひいては早期発見や予防に欠かせないものになっていくと認識しています。この絵本の取組みを中心にADI（国際アルツハイマー病協会）は2004年から2006年まで世界へ向けた情報発信にも力を注ぎました。昨年ベルリンで開催された国際アルツハイマー病会議では市内の中学生2名が英語で世界の人々へ絵本教室の成果を発表してくれました。今、世界へ向けた情報発信は、様々な形で大牟田の市民へ戻ってきています。

平成16年度からは、早期発見から看取りまで連続した本人中心のケアや支援であるように関係者全員の共通理解を導き、協働できる体制づくりを目指して、大牟田医師会の臨床認知症研

究会や介護支援専門員連絡協議会、健康福祉まちかど相談薬局、訪問看護ステーション、ホームヘルパー研究会、社会福祉協議会など様々な機関との多職種協働のワークショップを企画実施しました。市内に12名の忘れ相談医が誕生し、認知症コーディネーターと共に地域認知症ケアサポートチームをつくり、診断や支援の困難事例に対するケースカンファレンスを行ってきました。成果物として「わがまち大牟田の認知症支援ハンドブック」を作成、全世帯へ配布しましたが、その情報をもとにもの忘れ相談医を訪れる市民も増えてきました（図⑦）。

平成18年度は、地域包括支援センターとの協働による地域包括ケアサポートチームとしての忘れ相談検診・予防教室に積極的に取り組み、ようやく5年間の人材育成、体制づくりが認知症本人や家族へつながってきた手ごたえを感じています。

おわりに

近い将来認知症の治療は格段に進歩する時代がやってきます。だからこそ、認知症を正しく理解し、早期発見・予防から看取りまでステージに応じた適切な支援ができるように、尊厳を支えるケアや支援を整えていくことは重要だと思えます。それはまさしく多職種協働、地域協働、多分野協働のプロセスです。

課題は山積みです。取組みも多岐にわたるとはいえ骨太ではありません。しかし認知症対策は専門職である私たちの守備範囲を広げ、様々な地域力を引き出し、世代を超えて、国を超えてネットワークを生み出す可能性に満ち溢れています。

大牟田から、全国へ世界へ、そして未来へ、虫の目と鳥の目を持って地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。

(認知症ケア研究会)